

大門1

問1: 空欄ア・イの語句

- ・ア: 更新世(こうしんせい)

約258万年前から約1万年前までの期間。氷期と間氷期が繰り返された「氷河時代」にあたる。

- ・イ: 完新世(かんしんせい)

約1万年前から現在に続く期間。温暖化が進み、海面が上昇して現在に近い日本列島が形成された。縄文時代の始まりと重なる。

- ・正解: ④(ア=更新世、イ=完新世)

問2: 下線部ⓐ(日本列島と大陸の陸続き)について

・① 不適切。猿人(アウストラロピテクスなど)はアフリカで誕生し、日本列島までは到達していない。日本にやってきたのは、より進化した原人や新人である。

・② 適切。沖縄県の港川人、静岡県の浜北人は、更新世の新人(化石人類)の代表例である。

・③ 適切。大陸と陸続きだった頃、北からはマンモスやヘラジカ、南からはナウマンゾウなどが渡ってきた。

・④ 適切。長野県の野尻湖底からは、ナウマンゾウの化石とともに打製石器(野尻湖型ナイフ形石器)が発見されている。

- ・正解: ①

問3: 下線部ⓑ(岩宿遺跡)について

・1949年、相沢忠洋が関東ローム層(火山灰層)の中から打製石器を発見したことにより、日本にも土器出現以前の文化(旧石器文化)が存在したことが証明された。

- ・正解: ③

問4: 下線部ⓒ(縄文土器)について

・① 適切。火焰型(かえんがた)土器。縄文時代中期の代表例。

・② 適切。尖底(せんてい)土器。縄文時代早期の特徴で、地面に突き刺して使用した。

- ・③ 不適切。写真は台付きの器(高杯)であり、弥生時代の特徴を示す土器である。また、キャプションにある「田原本町」は弥生時代の巨大集落である唐古・鍵遺跡がある場所として有名だ。
- ・④ 適切。縄文時代の標準的な深鉢形土器である。
- ・正解:③

問5: 下線部④(石器)について

- ・① 適切。石鏃(せきぞく)は弓矢の先端につけ、狩猟に用いた。
- ・② 適切。打製石斧は土を掘る道具(打製掘削具)として用いられた。
- ・③ 適切。磨製石斧は、木材の伐採や加工に用いられた。
- ・④ 不適切。石皿は、木の実などを磨りつぶすために用いられた道具であり、焼くための道具ではない。
- ・正解:④

問6: 空欄ウ・エの組み合わせ(2つ選択)

縄文時代の広域交易を示す代表例を選ぶ問題である。

- ・長野県和田峠周辺で産出されるのは黒曜石(こくようせき)。
- ・新潟県姫川流域で産出されるのはひすい。
- ・したがって、組み合わせとしては「和田峠—黒曜石」と「姫川—ひすい」が正しい。
- ・正解:③と⑤

問7: 下線部④(呪術・風習)について

- ・X: 正。土偶(女性をかたどったもの)や石棒(男性のシンボル)は、多産や豊穣を祈る呪術的な道具と考えられている。
- ・Y: 誤。縄文時代の埋葬方法は、遺体の手足を折り曲げて埋葬する「屈葬(くっそう)」が一般的であった。伸展葬が一般的になるのは、弥生時代以降である。
- ・正解:②(X=正、Y=誤)

問8: 下線部⑤(水稻耕作の伝播)について

- ・① 不適切。北海道は「続縄文文化」、南西諸島は「貝塚文化」である。選択肢の説明はこれらが混同されている。
- ・② 不適切。初期は低湿地を利用した「湿田」であり、後に灌漑技術の発達により「乾田」の開発が進んだ。
- ・③ 不適切。弥生時代にはまだ田植えは普及しておらず、穂を直接まく「直播(じかまき)」が一般的だった。(※ただし、一部の研究では田植えの可能性も示唆されているが、教科書レベルでは④がより明確な正解とされる)
- ・④ 適切。弥生時代の収穫は、石包丁を用いて稲の穂先のみを摘み取る「穂首刈り(穂摘み)」が行われていた。根元から刈る「根刈り」は鉄製鎌が普及してからである。
- ・正解:④

問9: 下線部⑧(弥生土器)について

- ・X: 正。1884年に東京の本郷向ヶ岡弥生町(現在の文京区弥生)の貝塚から発見されたことに由来する。
- ・Y: 正。用途に応じて、貯蔵用の「壺」、煮炊き用の「甕(かめ)」、盛り付け用の「高坏(たかつぎ)」などが作られた。
- ・正解:①(X=正、Y=正)

問10: 下線部⑨(争い・集落)について

- ・X: 正。防御のために周囲に溝(環濠)を巡らせた「環濠集落(かんごうしゅうらく)」が発達した。
- ・Y: 正。山頂や丘陵上に築かれた「高地性集落(こうちせいしゅうらく)」は、軍事・防衛的な拠点であったと考えられている。
- ・正解:①(X=正、Y=正)

問11: 下線部⑩(吉野ヶ里遺跡)の場所

- ・吉野ヶ里遺跡は、佐賀県(九州北部)に位置する大規模な環濠集落遺跡である。
- ・地図上の E が九州北部を指している。
- ・正解:⑤

問12: 下線部⑪(社会の階層化)について

- ・① 適切。弥生時代、人々は集落の近くにある共同墓地に埋葬された。
 - ・② 不適切。前方後円墳は「古墳時代」の象徴であり、出現の時期が異なる。また、その中心は近畿地方(畿内)である。
 - ・③ 適切。首長級の墓(甕棺墓など)からは、権威の象徴として大陸系の青銅製鏡や武器が副葬品として見つかる。
 - ・④ 適切。弥生時代後期には、岡山県の楯築遺跡(たてつきいせき)のような大規模な墳丘墓(ふんきゅうぼ)が登場した。
- ・正解:②

大門2

問1: 地質年代の区分

この問題は、人類の誕生から縄文時代の始まりにかけての地質学的な時代区分を問うものである。

- 正解: ④(ア=更新世、イ=完新世)
- 空欄ア(更新世): 約258万年前から約1万年前までの期間。氷期と間氷期が繰り返された「氷河時代」であり、日本列島が大陸と陸続きになる時期があった。
- 空欄イ(完新世): 約1万年前から現在に至る期間。地球が温暖化し、海面が上昇して日本列島が形成された。縄文時代の時期と重なる。

選ばなかつた選択肢の解説

- 中世: 歴史学上の時代区分(鎌倉・室町時代など)であり、数百万年前～数万年前を指す地質年代の用語ではない。
- したがって、アやイに「中世」が含まれる①、②、③、⑤は、時代区分が根本的に異なるため誤りである。
- また、アに完新世を入れる⑥は、時間の前後関係が逆である。

問2: 下線部ⓐ(大陸との陸続き)に関する記述

旧石器時代の日本列島の環境と人類・動物の移動に関する問題である。不適切なものを選ぶ。

- 正解: ①(不適切)
 - 理由: 人類の祖先である「猿人(アウストラロピテクスなど)」はアフリカで誕生したが、アフリカの外へは出ていない。日本列島に渡ってきたのは、より進化した「原人」や「新人」である。

他の選択肢(適切な記述)の解説

- ② 港川人・浜北人: 更新世(旧石器時代)に日本に存在した新人(化石人類)の代表例であり、記述は正しい。
- ③ 北からのマンモス・ヘラジカ: 氷期に陸続きとなった北のルート(サハリン経由など)から渡來した動物であり、記述は正しい。
- ④ 野尻湖のナウマンゾウ: 長野県の野尻湖底遺跡からは、ナウマンゾウの化石と打製石器がセットで発見されており、記述は正しい。

問3: 下線部ⓑ(岩宿遺跡)に関する記述

1949年の岩宿遺跡の発見が、なぜ旧石器時代の存在を証明したのかを問う問題である。

- ・正解:③(遺跡が確認された地層が、関東ローム層であったから)
- ・理由:相沢忠洋が、土器の出土しない古い火山灰層(関東ローム層)から打製石器を発見したこと、日本にも土器出現以前の「旧石器文化」があったことが初めて科学的に証明された。

選ばなかつた選択肢の解説

- ・① 原人の頭骨:岩宿遺跡で発見されたのは石器であり、原人の頭骨ではない。
- ・② 年輪年代法:年輪年代法は樹木の年輪を利用して数千年前までの年代を特定する手法だが、岩宿遺跡の年代決定(数万年前)の主要な根拠ではない。
- ・④ 貝塚の発見:貝塚は、人々が定住を始めた縄文時代以降に顕著に見られる遺構である。移動生活をしていた旧石器時代の遺跡の根拠にはならない。

問4:下線部④(縄文土器)に関する記述

写真から、縄文土器ではない「不適切なもの」を選ぶ問題である。

- ・正解:③(不適切)
- ・理由:写真③は「高坏(たかつき)」と呼ばれる、食べ物を盛るための台が付いた器である。これは弥生土器に特徴的な器形である。また、注釈にある「田原本町」は弥生時代の巨大集落である唐古・鍵遺跡の所在地として有名である。

他の選択肢(縄文土器の例)の解説

- ・① 火焰型土器:縄文時代中期の信濃川流域などで見られる、豪華な装飾が特徴の土器。
- ・② 尖底土器:縄文時代早期に見られる、底が尖った土器。地面に突き刺して使用された。
- ・④ 深鉢形土器:縄文時代の全期間を通じて最も一般的だった、煮炊き用の土器。

問5:下線部④(石器)に関する記述

縄文時代に使用された石器の用途について、不適切なものを選ぶ。

- ・正解:④(不適切)
- ・理由:石皿(いしざら)は、すり石とセットで使い、木の実(ドングリやトチの実)をすりつぶしたり、粉にしたりするために使われた道具である。食物を「焼く」ために使われたのではない。

他の選択肢(適切な記述)の解説

- ・① 石鏃(せきぞく):石で作られた矢じりであり、弓矢の先端につけて狩猟に用いた。

- ・② 打製石斧：縄文時代において、土を掘り返して植物の根などを採集する道具（掘削具）として用いられた。
- ・③ 磨製石斧：石を磨いて作られた斧で、木材の伐採や加工に用いられた。

問6：空欄ウ・エの組み合わせ

縄文時代の広域交易（遠隔地取引）を示す特定産地の産物を選ぶ問題である。

- ・正解：③（ウ＝長野県和田峠、エ＝黒曜石）および ⑤（ウ＝新潟県姫川、エ＝ひすい）
- ・理由：
- ・黒曜石の代表的な産地は、長野県の和田峠や北海道の十勝、伊豆諸島の神津島である。
- ・ひすい（硬玉）の産地は、新潟県の姫川流域に限定されている。

選ばなかつた選択肢の解説

- ・①・④ サヌカイト：サヌカイトの主な産地は香川県の二上山周辺や大阪・奈良の境などであり、長野県や新潟県ではない。
- ・② 和田峠—ひすい：和田峠は黒曜石の産地であり、ひすいは産出しない。
- ・⑥ 姫川—黒曜石：姫川はひすいの産地であり、黒曜石の主産地ではない。

問7：下線部⑩（呪術・風習）について

縄文時代の信仰や埋葬方法に関する問題である。

- ・正解：②（X＝正、Y＝誤）
- ・文X（正）：縄文人は、あらゆる自然物に靈が宿ると考える「アニズム」の信仰を持っていた。その呪術的な道具として、女性をかたどった土偶や、男性を象徴する石棒が作られた。
- ・文Y（誤）：縄文時代の埋葬は、死者の靈が悪さをしないように、あるいは死者が蘇らないようにと、手足を折り曲げて埋葬する「屈葬（くっそう）」が一般的であった。死者の手足を伸ばして埋葬する「伸展葬（しんてんそう）」が普及するのは、弥生時代以降のことである。

問8：下線部⑪（水稻耕作の伝播）について

弥生時代における稻作の広がりと技術に関する問題である。

- ・正解：④（稻の収穫は、石包丁を用いて穗首を摘みとった）

- 理由: 弥生時代の収穫方法は、石包丁(いしほうちょう)を用いた「穂首刈り(ほくびがり)」が主流であった。稲の穂先だけを摘み取る方法であり、茎の根元から刈る「根刈り」は、鉄製鎌が普及する古墳時代以降に一般的となる。

選ばなかつた選択肢の解説

- ① 北海道の貝塚文化、南西諸島の縄繩文文化: これは名称が逆である。正しくは、北海道が縄繩文(ぞくじょうもん)文化、南西諸島が貝塚文化である。
- ② はじめは乾田、やがて湿田: 開発の順番が逆である。初期は低湿地を利用した「湿田(しつでん)」で作られ、後に灌漑(かんがい)技術が発達すると、生産性の高い「乾田(かんでん)」が作られるようになった。
- ③ 田植えはまだおこなわれず、穀を直接まいた: 弥生時代の主流は、穀を直接田にまく「直播(じかまき)」であった。選択肢の内容自体は歴史的事実に近いが、④の「石包丁による穂首刈り」の方が、この時代の特徴を示す最も適切で確実な記述として正解とされる。

問9: 下線部⑧(弥生土器)について

弥生土器の名称の由来と器形の種類に関する問題である。

- 正解: ①(X=正、Y=正)
- 文X(正): 1884年、東京府本郷区向ヶ岡弥生町(現在の文京区弥生)にある貝塚で、縄繩文土器とは異なる特徴を持つ土器が発見されたことが名称の由来である。
- 文Y(正): 弥生土器は用途に応じて形が分かれている。貯蔵用の「壺(つぼ)」、煮炊用の「甕(かめ)」、食物を盛るための「高坏(たかつき)」、蒸し器である「甑(こしき)」などがある。

問10: 下線部⑩(争い・集落)について

稻作の普及に伴う社会の変化と、防衛的集落に関する問題である。

- 正解: ①(X=正、Y=正)
- 文X(正): 余剰生産物をめぐる争いから身を守るために、集落の周囲に深い溝(堀)をめぐらせた「環濠集落(かんごうしゅうらく)」が出現した。佐賀県の吉野ヶ里遺跡などがその代表である。
- 文Y(正): 平地ではなく、見晴らしの良い丘陵や山頂に作られた「高地性集落(こうちせいしゅうらく)」も現れた。これらは軍事的な見張りや防衛の拠点であったと考えられている。

問11: 下線部⑪(吉野ヶ里遺跡)の場所

地図上で吉野ヶ里遺跡の所在地を特定する問題である。

- ・正解:⑤(E)
- ・理由:吉野ヶ里遺跡は、現在の佐賀県(神埼郡吉野ヶ里町・神埼市)に位置する、弥生時代最大級の環濠集落遺跡である。地図上で九州北部に位置する記号 E が該当する。
- ・他の地点:Aは南関東(千葉付近)、Bは東海(愛知付近)、Cは近畿(大阪・兵庫付近)、Dは山陰(島根付近)を指している。

問12:下線部①(社会の階層化)について

弥生時代の埋葬制度と社会構造に関する記述の中で、不適切なものを選ぶ。

- ・正解:②(不適切)
- ・理由:前方後円墳は、弥生時代の次の時代である「古墳時代」を象徴する墓制である。また、前方後円墳は3世紀中頃に**近畿地方(畿内)**を中心に成立したものであり、九州で出現して東へ広がったという記述も誤りである。

他の選択肢(適切な記述)の解説

- ・① 集落近くの共同墓地:弥生時代の人々は、集落のすぐ近くにある墓地に埋葬されるのが一般的であった。
- ・③ 蓋棺墓の中に青銅製の鏡や武器:九州地方に見られる蓋棺墓(かめかんぼ)などからは、有力者の象徴(威信財)として、大陸から伝わった銅鏡や銅剣などが発見される。これは身分の差が生じていた証拠である。
- ・④ 大型の墳丘墓:弥生時代後期には、岡山県の楯築(たてつき)遺跡のように、盛り土をした大型の「墳丘墓(ふんきゅうば)」が各地で作られるようになり、のちの古墳へつながっていった。

大門3

問1: 下線部②「元老院」について

明治政府が立憲制への移行を目指す過程で設置した機関に関する問題だ。

- ・正解: ② 立法諮詢機関である。
- ・解説: 1875年の大阪会議での合意に基づき、立法事務を司る機関として設置された。ただし、政府から諮詢された法案を審議するのが主であり、現在のような独立した立法権を持っていたわけではない。
- ・他の選択肢について:
 - ・① 現在の最高裁判所にあたる: 誤り。大阪会議の結果、司法機関として設置されたのは大審院である。
 - ・③ のちに大日本帝国憲法で、その権限が定められた: 誤り。大日本帝国憲法で規定された立法機関は、衆議院と貴族院からなる帝国議会である。
 - ・④ 日本国憲法の施行にともない、廃止された: 誤り。元老院は1890年の帝国議会開設に際し、その役割を終えて廃止された。

明治初期の統治機構

問2: 下線部③「憲法私案」について

民間による憲法草案(私擬憲法)に関する、不適切なものを選ぶ問題だ。

- ・正解: ③ 立志社は「東洋大日本国憲法」を発表した。
- ・解説: 「東洋大日本国憲法」は、高知の立志社の中心人物であった植木枝盛が個人で起草したものである。立志社という組織名と草案名が直結している記述は、試験対策上「不適切(誤り)」とされることが多い。
- ・他の選択肢について:
 - ・① 一般に私擬憲法と総称されている: 正しい。民間の自由民権運動家たちが作成した憲法草案を総称して「私擬憲法」と呼ぶ。
 - ・② 交詢社は「私擬憲法」を発表した: 正しい。福沢諭吉の影響を受けた交詢社が発表したもので、イギリス流の議院内閣制をモデルとしていた。
 - ・④ 千葉卓三郎ら東京近郊の学習グループの草案は、「五日市憲法草案」と呼ばれている: 正しい。東京都あきる野市の深沢家から発見された、民主的な内容を含む草案だ。

問3: 空欄[ア]～[ウ]にあてはまる語句

1881年の「明治十四年の政変」前後の重要人物を問う問題だ。

- ・正解: ⑥ ア=大久保利通、イ=大隈重信、ウ=岩倉具視
- ・ア(大久保利通): 1878年、石川県士族らにより紀尾井坂で暗殺された(紀尾井坂の変)。これにより、維新の三傑が全員表舞台から消えることとなった。
- ・イ(大隈重信): 肥前(佐賀)出身。イギリス流の議院内閣制に基づく国会の早期開設を主張し、保守派と対立した。
- ・ウ(岩倉具視): 公家出身。大隈の急進的な提案を危険視し、プロイセン流の君權が強い憲法体制を望む立場から、大隈を政府から追放した。

問4: 下線部②「財政状況やインフレへの対応」について

西南戦争後の深刻なインフレとその対策に関する問題だ。2つ選ぶ必要がある。

- ・正解: ①、⑤
- ・① 西南戦争の戦費調達のために不換紙幣が増発された…: 正しい。1877年の西南戦争で多額の戦費が必要となり、政府は裏付けのない不換紙幣を大量に発行した。これがインフレの主因だ。
- ・⑤ 1876年に国立銀行条例が改正されたのちに…: 正しい。改正により、金貨との交換義務がなくなったため、国立銀行から大量の不換銀行券が発行され、さらにインフレを加速させた。
- ・他の選択肢について:
 - ・② 新貨条例を制定して、円・銭・厘の単位を用いる…: 誤り。新貨条例は1871年の制定であり、時期が異なる。また、これは通貨単位の統一が目的で、インフレ対応が争点ではない。
 - ・③ 貨幣法を制定して、金本位制を採用するか否かが争点だった: 誤り。貨幣法による金本位制の確立は1897年(日清戦争の賠償金が背景)であり、この時期の話ではない。
 - ・④ 松方正義は、不換紙幣の一層の増発による積極財政を主張した: 誤り。松方正義が行ったのは、不換紙幣を回収し、軍事費以外の歳出を抑える緊縮財政(松方デフレ)である。

問5: 下線部③「開拓使官有物払下げ事件」について

明治十四年の政変の引き金となった汚職疑惑に関する不適切なものを選ぶ問題だ。

- ・正解: ② 開拓使が不当に高い価格で払い下げようとしたことが、問題とされた。
- ・解説: この事件の問題は、政府が多額の国費を投じた設備や事業を、同郷の政商に「不当に安い(格安の)」価格で、しかも無利息・長期間の分割払いで払い下げようとした点にある。

- ・他の選択肢について:
 - ・① 当時の開拓長官は、薩摩出身の黒田清隆だった: 正しい。黒田は同じ薩摩出身の商人に便宜を図った。
 - ・③ 薩摩出身の政商五代友厚らに、払い下げようとした: 正しい。五代らが設立した「北海社」に払い下げる予定だった。
 - ・④ 政府は払い下げを中止した: 正しい。世論の激しい批判を浴び、政府は払い下げの中止と、10年後の国会開設を約束することで事態の収拾を図った。

問6: 下線部⑥「乾綱」の意味について

史料(開拓使官有物払下げ事件の直後に出てきた「国会開設の勅諭」)の読解問題だ。

- ・正解: ③(X=誤、Y=正)
- ・X(誤): 「乾綱(けんこう)」とは、天皇自らが政治を執る権限(主権)を指す言葉である。文脈では「天皇が憲法を制定し、国会を開設する権限を保持していること」を示しており、幕府の権力を指すものではない。
- ・Y(正): 史料中の「中古(ちゅうこ) 紐(ちゅう)を解(と)き」という部分は、平安時代中期から摂関家や武家が実権を握り、天皇の親政が途絶えていた期間を指している。明治維新によってその「乾綱」を再び取り戻した、という文脈だ。

問7: 下線部⑦「府県会」について

1878年の地方三新法によって設置された地方議会に関する問題だ。

- ・正解: ③(X=誤、Y=正)
- ・X(誤): 府県会は、公選(選挙)によって選ばれた議員で構成される。知事や県令は政府が任命する行政の長であり、議会の構成員そのものではない。
- ・Y(正): 府県会は、将来の国会開設に向けた「民意を反映させる練習の場」としての役割を期待されていた。実際に、民権運動の拠点にもなった。
- ・他の組み合わせ:
- ・①(正・正)、②(正・誤)、④(誤・誤)は、上記の通りXが誤りであるため正解にはならない。

問8: 空欄[エ]～[カ]にあてはまる語句

自由民権運動の組織化と、政党の結成に関する問題だ。

- ・正解:① 工=国会期成同盟、才=自由党、力=立憲改進党
- ・工(国会期成同盟): 1880年に結成された民権派の全国組織。これが母体となり、1881年に板垣退助を党首とする日本初の政党が作られた。
- ・才(自由党): 1881年10月、国会期成同盟を改組して結成された。フランス流の急進的な民主主義を掲げた。
- ・力(立憲改進党): 1882年3月、明治十四年の政変で下野した大隈重信を中心に結成された。イギリス流の稳健な立憲政治を掲げた。
- ・他の選択肢について:
 - ・立憲帝政党(②、④、⑥の力): 福地源一郎らが結成した政府支持の政党。大隈重信の党ではない。
 - ・三大事件建白運動(④～⑥の工): 1887年に起こった運動の名称であり、1881年時点の組織名ではない。
 - ・立憲国民党(⑤、⑥の才): ずっと後、明治末期(1910年)に結成された政党である。

問9: 下線部⑧「政府による弾圧」について

激化する民権運動に対し、政府が行った抑制策に関する不適切なものを選ぶ問題だ。

- ・正解:③ 保安条例が制定され、民権派は強制的に東京に住まわされた。
- ・解説: 1887年の保安条例は、秘密集会を禁止し、さらに政府にとって危険とみなされた人物を、皇居から3里(約12km)以上外に**「追放する(退去命令)」**ための法律である。東京に住まわせるのではなく、東京から追い出したのである。
- ・他の選択肢について:
 - ・① 集会条例が改正され、政党への規制が強化された: 正しい。1882年の改正で、政党の分社設置が禁止されるなど、活動が厳しく制限された。
 - ・② 政府は民権運動の弱体化をはかつて、板垣退助らの洋行を援助した: 正しい。政府(井上馨・後藤象二郎ら)が資金を工面し、板垣を外遊させて指導者不在にすることで、自由党内の団結を乱そうとした。
 - ・③ 福島県令の三島通庸は、民権派の政党員を大量に検挙した: 正しい。1882年の福島事件を指す。三島の強硬な姿勢に対し、河野広中ら自由党員が抵抗したが、弾圧された。